

世界最高峰のデータ分析競技会 「KDD CUP 2019」で世界1位を獲得

2019年8月4日に、先進技術研究所の落合 桂一、サービスイノベーション部の川名 昭博、出水 宰、石黒 慎、無線アクセス開発部の丸山 翔平がデータ分析競技会であるKDD CUP 2019にて世界第1位を獲得しました。

KDD CUPは国際計算機学会（ACM：Association for Computing Machinery）が主催するデータマイニング関連の国際会議KDD（Knowledge Discovery and Data Mining）で開かれるデータ分析競技会で、1997年、まだビッグデータやデータサイエンティストという言葉が無い時代から続く世界最高峰かつ最も歴史のあるデータ分析競技会です。

本年度の競技会は4つの部門に分かれ、今回第1位を受賞した部門では、中国国内での交通機関などの乗換案内機能の検索ルートやユーザの選択結果が

含まれるビッグデータを用いた研究課題の設定とその解決を問うもので、通常と異なり課題を自ら設計し、その意義や解決策の妥当性が問われるという点が特徴でした。

今回、中国の大気汚染問題、提供データの交通機関の特徴、バイクシェア市場の拡大といった点に着目し、移動時間をできるだけ増加させずに自転車などの環境にやさしい交通手段を選択する手法を考案し、世界1位の獲得に至りました。

日頃からパートナー企業との協業の中でビッグデータを有効活用したビジネス課題の設定と解決に取り組んでおり、それが今回の結果へと結び付いたと考え、今後もビッグデータ活用ビジネスの拡大とともに社会課題解決の取組みを促進していきます。



（左から）落合，出水

